

令和 4 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「学びと支援の新たな結合による第三の教育」推進
生徒の well-being を実現する学校
大阪の地域社会を支え地域社会に参画する原動力となる市民を育成する。

2 中期的目標

本校の学校教育総体が学習指導面、生徒支援面などあらゆる点で、2030 年をゴールとする国連で確認された SDGs（持続可能な開発計画のゴール）をめざす取組みと合致する。今年度からはエンパワメントスクール7か年の経験を総括し、更に「生徒の Well-being を実現する学校」をめざして、以下の3点を意識したカリキュラムを作成し実行する。

- ① Inclusion（インクルージョン）を実現する
- ② Competency（コンピテンシー）を育てる。
- ③ 社会参画を実現する Democracy（デモクラシー）を育てる。

令和5年度をスタートとする。「ともに学び・ともに育つ」多様な教育実践モデル校として、他の学校のモデルとなるような取組だけにとどまらず、オンリーワンの学校として魅力あるカリキュラムの実現に努める。

これ以後成果指標としての目標数値については、4人に3人の割合程度の肯定・称賛・満足が当面の維持目標と考えている。

1. 学習力をエンパワーする [SDGs 質の高い教育をみんなに]

学習力向上 PT を中心に教科横断型の研修グループを形成し、全国の先進的な取組みに学ぶ研修を積極的に行う。また、西成区を中心に近隣の義務制学校に指導と支援の方法を学ぶ。

- 授業力向上という視点から生徒の「学習力」向上の視点に切り替える。
- 多面的な評価方法の開発で生徒の学習意欲を伸ばす。
- 生徒の学習力を伸ばすため、ICT を活用した教育活動の「ハードル」を下げる

【評価指標】

- ①学習到達度を測る教育産業のテストの活用による実態把握
- ②学校教育自己診断における「工夫された授業」「わかりやすい授業」への肯定感(できるだけ現状を維持することを目的とするも、およそ 75%の肯定率で目標達成と考えている。)
工夫された授業への肯定感 (R1 80.7%, R2 84.1%, R3 89.7%) : R6 目標→[75%以上維持]
分かりやすい授業への肯定感 (R1 83.1%, R2 88.3%, R3 90.2%) : R6 目標→[75%以上維持]
- ③生徒授業アンケートでの授業に対する肯定感(全体平均値の向上) (R1 3.40, R2 3.49, R3 3.48)

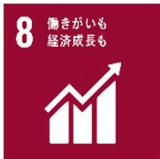


2. キャリア教育でエンパワーする [SDGs 働きがいも、経済成長も]

- 挫折や失敗からリカバーするチカラを育成する。
- 企業家教育（アントレプレナーシップ教育）を実施する。
- アルバイト支援（経営推進費）を継続し、2 年次のインターンシップを通して、段階的・実践的な職業教育を実施する。
- 社会人基礎力の養成を行う。（1 年次からの人間関係作りなどを含めた）
- 定着支援にも重点をおく。

【評価指標】

- ①学校教育自己診断アンケート（生徒）における「成長実感」
(R1 83.1%)→R2 78.4%→R3 83.0%) R6 目標 75%維持
- ②進路指導に対する自己診断アンケートでの満足度 (R1 77%→R2 86% →R3 88, 6%) R6 目標 75%以上維持
- ③地元への就職定着を促進しながら、就職内定 100%を維持する。(令和 3 年度現在 11 年連続 100%達成)
- ④就労 1 年以内の離職率を R6 には 10%以内ににする。R1 年度 卒業生離職率 16% R2 年度 18.6%
※離職率は 2 年前の卒業生の状況を反映する)
- ⑤キャリア教育の原点は「学びなおし」と自信の回復 進級率卒業率を向上させる。R6 卒業生数 200 名(213 名入学) 卒業率 94%をめざす。(令和 3 年度卒業学年の 3 年間 2 年への進級率 86.2%、卒業率 79.7%)。
- ⑥R4 生徒を勇気づけるキャリアステージ計画(地域協働キャリアセンター構想)(R4 現在 1 年からの進級率 85%を 90%に、卒業率 76%を 80%に 1 年後の離職率 16%に R6 1 年からの進級率 94%、卒業率 90%に、1 年後の離職率 10%に)



3. シチズンシップ教育でエンパワーする [SDGs 貧困をなくそう] [SDGs 人や国の不平等をなくそう]
[SDGs 平和と公正をすべての人に]

○部落差別や野宿問題に起因する(西成差別) 排除・子どもの貧困に象徴される貧困状態による差別・多様性(多文化・LGBT など)による社会的な排除さらに障がいのある生徒への排除など社会的課題につながる当事者が多数在籍している。そうした教室にいる仲間の理解を通して世界を把握することができるよう取組みを進める。【多様性が強みとなる学校運営】

○18 歳選挙権(政治的教養を高める教育)を通じて、市民としての権利と責任を身に付ける。

※ 4「地域まるごと」エンパワーをめざし「地域課題を解決する」新科目「地域課題研究」を新たなエンパワメント TIME 科目として開発、実施する。

【評価指標】

- ①学校教育自己診断における人権教育等への肯定感
(R1 87.1%, R2 89.4%, R3 93.2%) R6 目標→[90%以上維持]
- ②学校行事など生徒会活動への肯定感
(R1 74.8%, R2 78.6%, R3 87.9%) R6 目標→[90%以上維持]



4. 「地域まるごと」エンパワーする [SDGs 住み続けられるまちづくりを]

- 「産業社会と人間」「エンパワーTIME」「総合的な探究の時間＝チャレンジ」の取組みをエンパワメント学習発表会で報告する。
 - 地域防災の取組みを地元自治体とともに小中高の連携で行う。
- 【評価について】
- ※エンパワメント学習発表会実施時におけるアンケート（文章標記）による分析評価
 - ※学校運営協議会での評価（協議員による参観とコメントによる分析評価）



5. 運営改善で教員力もエンパワーする

- 「チーム学校」の取組み、先駆的に行ってきた西成高校として、「チーム西成高校」（SC,CC,SSW、カフェ事業、学校運営協議会）の積極的運営を行う。
 - 分掌体制の改編を実施したのでその運用スタイルを構築する。
 - 「働き方改革」の一環として9時35分授業開始45分授業を実現し、生徒のために働きやすい環境を作り出す。
 - 「教職員連続学習講座」を引き続き実施し、幅広い教育者としてのスキル・見通し・マインド（センスと教養）を涵養する。
- 【評価指標】
- ①学校教育自己診断（教職員用）による評価
 - 教職員間で必要な調整打合わせが円滑におこなわれている
 - ①63.2%（R02）→61.5%（R03）R06 目標→75%

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1. 学習力をエンパワーする		① 習熟度クラス展開による学習の質の改善 ② 学習習慣の定着をめざす ③ 生徒の学力をキーとなるコンピテンシーを軸にとらえなおし、多面的な評価をおこなうよう研究する（そのことにより、授業を柔軟にするファシリテーションの実践的研究とする） ④ 到達度に対する評価ではなく、徹底した加点法による評価によるゴールフリー評価を実現する。	①学校教育自己診断「わかりやすい授業」の肯定感の維持[90.2%] ②学校教育自己診断「質問しやすい」の肯定感の維持 [82.1%] ③学校教育自己診断「評価納得感」の肯定感維持[90.4%] ④学校教育自己診断「評価の仕方や基準のあらかじめの明示」肯定感の維持 [90.9%]	
	「2年生ギャップ」に対する学びの改善 「学習評価」の方法を学校全体で改善に取り組む			
2. キャリア教育でエンパワーする		① 地域の課題を解決する「地域課題研究」（学校設定科目）をエンパワメントタイムの授業として実践を開始し、本校学校文化を代表するコアカリキュラムに育てる。 ② インターンシップの充実 ③ キャリアパスポートの効率的活用を通じてキャリア意識を高める。 ④ アントレプレナーシップ教育を通じてモチベートする ⑤ 生徒を勇気づけるキャリアステージ計画	①② 新たに生徒による評価を実施する。肯定感 75%をめざす ※③については目標数値を設定せず、生徒の感想による評価を行う。 ④アントレプレナーシップ教育講演会を実施する（少なくとも年 1 回） ⑤校内キャリアアップ 2 年への進級（R3 86%）90%、卒業率 80%、1 年後の離職率 16%をめざす。	
	○ロードマップによる計画的なキャリア教育の推進 ○社会人基礎力の育成			
3. シチズンシップ教育でエンパワーする		① 仲間作りを促進し、相互の理解を増すことで相互の信頼関係を高める。また教員とも信頼できる「環境」を作る ② カフェ事業を引き続き拡充し、生徒支援を重層的に実施する ③ 人権・福祉についてなど社会について多面的に学び、市民としての権利と責任を身につける。（特にジェンダー、ハラスメントなどの問題も取組む）	①学校教育自己診断における「悩み事や相談事に関する質問項目」についての肯定感を維持。[85.8%] ②「居場所について学校は気にかけてくれている」の肯定感を維持。[90.0%] ③「人権・福祉の学習」への自己診断アンケートへの肯定感の維持。[93.2%]	
	○地域協働の取組みを進める ○子どもの権利条約にもつづく市民教育をすすめる			
4. 「地域まるごと」エンパワーする		① 「地域課題研究」の実現（子どもの貧困、若者と労働、部落差別、野宿、隔離と迫害など）←産業社会と人間、総合的な探究の時間、エンパワ演習のカリキュラムを再編する ② エンパワメント学習発表会の実施 ③ 地元区役所（西成区・住之江区など）との地域協働の連携を通じて、在校生・卒業生の活躍の場所を探る	①エンパワ演習で一部先取りをおこなう予定。生徒感想によるフィードバック（1年生の産業社会と人間が進路に役立つなどの肯定感）75%以上 [83.3%] ※②数値による評価指標を設けず、アンケートによるフィードバック。（肯定的な感想など） ※③数値による評価仕様を設けず、エピソードやストーリーによる評価を明示する。	
	○西成の地域課題に学ぶ ○地元企業への学校説明会 ○地元行政との連携			

5. 運営改善で教員力もエンパワーする		① 各種会議の目的・位置づけを引き続き明確にするなど運営方法の研究や意思相通の方法を開発し、効率的な仕事文化を育む→西成高校ハンドブックによる職員研修 ② ICT を活用した連絡調整方法の習熟 ③ 始業後1時間にすべての会議を集約することで、授業後の時間を生徒への指導支援（部活動等）に集中できる。また子育て世代の職員の働き方改革にも資する。	①ハンドブックによる研修の実施 ②③学校教育自己診断による教職員によるフィードバック 肯定感 60%以上	
	○機動的・機能的な学校組織の確立 ○働き方改革を実現するための職員室デザイン			